

年報

2024 年度

筑波大学大学院 人間総合科学学術院

人間総合科学研究群 看護科学学位プログラム

目次

I. 看護科学学位プログラムの組織運営	1
1. 看護科学学位プログラムの目的、教育目標	1
2. 看護科学学位プログラムの沿革	3
3. 看護科学学位プログラムの組織	5
4. 看護科学学位プログラムの施設・設備	12
II. 教育活動	14
1. 教育内容及び方法	14
2. 自発的な教育活動	15
3. 教育の成果と教育の質の向上及び改善のためのシステム	15
4. 大学院教務・看護科学事務の支援体制	18
III. 研究活動	21
1. 教員・学生の個人業績	21
IV. 大学院生支援	40
1. 学生数の状況	40
2. 大学院生支援委員会の活動	41
3. 今後の課題	43
V. 社会貢献と国際交流	44

I. 看護科学学位プログラムの組織運営

1. 看護科学学位プログラムの目的、教育目標

1) 看護科学学位プログラム博士前期課程および博士後期課程の理念と目的

看護科学学位プログラム博士前期課程では、学際的及び国際的な視点に基づき、看護を科学的に探究する人材を育成することを目的とします。博士前期課程では科学的な根拠に基づいて看護の指導的な役割を担う教育者・研究者を目指す学生および看護の実践能力および高度な専門性を有する看護の高度専門職業人を目指す学生を求めています。

看護科学学位プログラム博士後期課程では、看護学の高度専門職者・管理者、教育者・、政策・行政分野の看護・医療の専門家として専門的知識、技術を有するに留まらず、常に研究マインドを持って看護実践を検証していくことのできる能力を育成します。さらに、看護の専門領域だけではなく、「学際性」と「科学性」に基づく新しい看護の技術や教育・研究方法を開発できる能力を育成します。博士前期課程で養った看護実践能力や研究能力を活かし、さらに次代に向けて必要となる新たな知識の創造と、技術開発の基礎研究者となる教育・研究方法などについて体系化できる力を備えようとする教育者・研究者、あるいは、看護科学の基礎的な能力を修めた者で、実践と理論の架け橋となるための高度専門看護者・管理者、行政官を目指そうとする者を求めています。

2) 看護科学学位プログラム博士前期課程の特色と教育目標

看護科学学位プログラム博士前期課程では、教育目的を達成するために、修了後の進路に対応した以下のプログラムを設定します：①博士後期課程への進学に向けて研究基礎力を育成する看護科学プログラム、②高度な教育・実践能力を持つ助産師を育成する助産学プログラム。

博士後期課程への進学に向けて研究基礎力を育成する看護科学プログラムでは、筑波大学大学院学則で規定する課程の目的を踏まえ、看護科学の領域で、社会的学術的意義が高く、看護科学の発展に寄与できる研究を実践できるよう、

以下の能力を育成します。

- ① 科学的根拠に基づいて看護を探究し、実践する能力
- ② 看護科学の基礎になる専門知識と技術をもって看護を実践・教育する能力
- ③ 看護を学際的な視点から科学的に分析する能力
- ④ 豊かな感性と確かな倫理観に基づく看護の実践能力
- ⑤ 国際的な看護実践を志向する能力
- ⑥ 国際水準の看護研究の成果を自らの実践に活かす能力

高度な教育・実践能力を持つ助産師を育成する助産学プログラムでは、筑波大学大学院学則で規定する課程の目的を踏まえ、助産学分野における高度専門職業人として十分な教育・実践能力を身に付けられるよう、特以下の能力を育成します。

- ① 科学的根拠に基づいて助産を探究し、実践する能力
- ② 看護科学の基礎になる専門知識と技術をもって助産を研究・実践する能力
- ③ 助産を学際的な視点から科学的に分析する能力
- ④ 豊かな感性と確かな倫理観に基づく助産の実践能力
- ⑤ 国際的な助産実践を志向する能力
- ⑥ 国際水準の助産研究の成果を自らの実践に活かす能力

3) 看護科学学位プログラム博士後期課程の特色と教育目標

看護科学学位プログラム博士後期課程では、教育目的を達成するために、筑波大学大学院学則で規定する課程の目的を踏まえて、看護科学の領域において博士の学位に相応しいだけの新規性、独創性と十分な学術的価値のある学位論文を提出できるよう、以下の能力を育成します。

- ① 看護実践の基盤になる科学的根拠を創出する研究能力
- ② 看護に関する高度な知識と技術力
- ③ 高度専門職者としての実践知に基づく教育・研究能力
- ④ 確かな倫理観と価値基準に裏付けられた研究能力
- ⑤ 国際水準の研究能力

2. 看護科学学位プログラムの沿革

1) 博士前期課程の沿革

平成 15 年度に筑波大学は、看護短期大学から看護・医療科学類として 4 年制大学になりました。平成 18 年度に看護・医療科学類が完成年度を迎えるにあたり、大学院進学を希望する学生の受け皿となり、専門性を高める看護の大学院として、また茨城県内の看護系大学生および看護師からの強いニーズに応えるため、平成 19 年 4 月に人間総合科学研究科に設置されました。

社会的なニーズに応えるために「人間の生物身体的・教育福祉的・精神文化的の 3 側面を視野に入れながら人間に関わる総合科学の確立を目標」としている筑波大学大学院人間総合科学研究科があります。その一専攻として設置された看護科学専攻は、従来の看護学が追求してきた「科学性」のみならず、看護学と他の融合可能な学問領域との学際融合を図り「人間の総合性」を「次代を担うエビデンスの思考に立つ新たな科学」の視点に立つ「専門性」を取り入れ、「実践看護学領域」「地域健康システム看護学領域」「環境看護学領域」の 3 領域で教育が始まりました。

看護においては人々の QOL の向上を目指した、より専門的な知識と高度な看護技術、科学的根拠に基づいた的確な判断力を有した高度専門職業人の育成が求められ、平成 22 年度から専門看護師教育課程に関する科目の開講を始めました。平成 23 年度には「がん看護」「精神看護」、平成 24 年度には「慢性看護」が、専門看護師教育課程として日本看護系大学協議会より認可を受けました。専門看護師教育においては、積極的に e-learning を導入し、対面講義・演習との組み合わせにより、教育内容の拡充に努めてまいりました。また、平成 23 年度に専門看護師教育課程以外の科目についてのカリキュラム改正を行い、設置時の「実践看護科学領域」「地域健康システム看護学領域」「環境看護学領域」の 3 領域から、「実践看護学領域」「地域環境システム看護学領域」の 2 領域に再編しました。平成 26 年度より高度実践看護教育のさらなる充実を図り、「家族看護」の専門看護師教育課程を追加し、日本看護系大学協議会より「がん看護」「精神看護」「慢性看護」「家族看護」の 4 分野において専門看護師教育課程(38 単位)の認定を

受けました。また同年より、学生の研究力と教育力を強化することを目指し、助産師教育課程を学士教育から大学院教育に移行し(文部科学省認定)助産師養成教育を提供しています。

平成 29 年度には、前期課程内に、修了後の進路に対応したプログラム:①博士後期課程への進学に向けて研究基礎力を育成する看護科学プログラム、②専門看護師としての臨床実践能力を育成する高度実践看護プログラム、③高度な教育・実践能力を持つ助産師を育成する助産学プログラムを設定し、運営を開始しています。令和元年度から 1 科目あたりの受講者数を増やし、学習の充実を図るため「実践看護学領域」「地域環境システム看護学領域」の 2 領域をなくし、看護科学として 1 つの専門領域にしました。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 看護科学学位プログラムへの改変

令和2年度に筑波大学では大学院改革が行われ、8研究科、85専攻であった大学院は、3学術院、6研究群、56 学位プログラムより成る大学院に改変されました。人間総合科学研究科 看護科学専攻は、人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 看護科学学位プログラムとなりました。再編の目的は、各研究群では専任の教員を中心とした幅広い学問分野の教員が協働して学位プログラムの授業と研究指導を行うことにあります。また、学位授与時に学生が備えるべき知識・能力(コンピテンス)を、全学で共通の汎用カコンピテンスと、各学位プログラムに特有の専門カコンピテンスの双方から明確化し、その修得に向けた教育課程を編成しました。学生の達成度評価にあたっては、学会発表や論文作成、TA の経験やボランティア活動を含め、授業以外の活動も積極的に評価します。また学生が修了するまでに汎用カコンピテンスと専門カコンピテンスを修得できるよう、きめ細かな学修支援を行うことになりました。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、春学期は教育活動が制限されましたが、秋学期からは対面、オンラインを含めたハイブリッドの授業を行い充実させることができました。

看護科学専攻は、令和2年度までに博士前期課程188名の学生を修了させました。看護科学専攻は、令和4年度に修了生1名を輩出することにより、教育課程

16年間の幕を閉じました。看護科学学位プログラムとなった令和3年度から令和6年度においては、新たに47名の学生が修了しました。またこれまでに21名の修了生が専門看護師試験に合格しています。しかしながら、諸般の事情により専門看護師養成課程の募集を令和6年度より終了することとなりました。

看護科学専攻ならびに看護科学学位プログラム博士前期課程修了生は、保健師、助産師、看護師、養護教諭あるいは大学教員として活躍しています。

2) 博士後期課程の沿革

国際的レベルの教育・研究の拠点となることを目的として、平成13年に「人間総合科学研究科」が開設され、この人間総合科学研究科に平成19年4月に看護科学専攻博士前期課程が、前期課程の開設に引き続き、平成21年4月に看護科学専攻博士後期課程が誕生しました。平成26年度からは、文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成事業」の中で地域基盤型高度実践看護師コースを開講し、博士後期課程における高度実践看護師の育成を開始しました。

令和2年度に行われた筑波大学大学院改革により、博士後期課程においても令和2年度より看護科学学位プログラムの入学生の受け入れを開始しました。

看護科学専攻は平成25年度3月に初めて修了生が誕生し、博士(看護科学)が授与されました。以降、博士(看護科学)の授与は、2名の論文博士を含め、令和6年度までに看護科学専攻から50名、看護科学学位プログラムから5名、計55名となり、看護科学専攻ならびに看護科学学位プログラム博士後期課程の修了生は厚生労働省をはじめ日本のさまざまな保健医療分野で将来有望なリーダーとして活躍しています。

3. 看護科学学位プログラムの組織

1) 教務委員会

履修関連

1. 科目一覧の管理、次年度科目一覧作成依頼

2. 時間割作成
3. シラバスの管理、次年度シラバスの作成依頼
4. 大学院便覧・大学院スタンダードの確認
5. 既修得単位認定(なし)・学籍管理(副指導教員変更、研究生等)
6. 次年度 学群生、科目等履修生一覧の管理
7. 修了認定(前期・後期)用資料の作成
8. 協力教員、非常勤講師、ゲストスピーカーに係る調整
9. 在校生オリエンテーションの企画・実施
10. 実習科目の進捗状況とINFOSS 受講状況の確認・管理
11. その他、履修関連事項の検討(達成度基準の見直し、留学生対応、等)

審査関連

1. 研究計画書(前期・後期)審査委員会案の作成
2. 予備審査委員会(前期・後期)案の作成
3. 論文審査委員会(前期・後期)案の作成
4. 研究計画書(前期・後期)審査会・発表会の実施
5. 修士論文発表会(前期)の運営
6. 研究計画書(前期・後期)審査報告書の確認
7. 予備審査報告書(前期・後期)の確認
8. 論文審査報告書(前期・後期)の確認
9. 審査スケジュール(前期・後期)案の作成
10. その他、審査関連事項の検討(オンライン対応、等)

2)入試委員会

令和5年度の入試委員会の活動は、博士前期課程、博士後期課程の入学試験の実施とそれに伴う各種業務を遂行した。本学位プログラムの入試実施体制のなかで、出題ミス予防に向けた基準等を遵守し、適正かつ公正である入学試験となるよう入学試験を実施した。

令和6年度入試は、感染拡大防止に留意しながら実施した。大学からの留意事項(以下)を受験者に示した。

【試験会場への入構に係る留意事項】

1. 試験日までの期間が10日を切ってから、新型コロナウイルス等の感染症の検査で陽性となった場合は、居住地で示されている療養期間を目安(以下を参照)に入構等の判断をしてください。
 - ① 療養期間の目安(発症後5日間、かつ症状軽快後24時間が経過するまで)を経過していない場合は、今回の受験を見送る等の検討をお願いします。
 - ② 療養期間が経過している場合は入構に支障はありませんが、発症後10日間が経過するまではマスクの着用をお願いします。
2. 試験当日、発熱、咳、咽頭痛、頭痛、倦怠感などの感冒症状がある場合は、今回の受験を見送る等の検討をお願いします。

【試験当日の注意事項】

1. 咳等の症状が治まっていない場合は、試験当日にマスクの着用をお願いします。
2. 試験会場内において咳を繰り返すなど体調不良の症状がみられる方には、座席または試験室を移動していただくことがあります。
3. マスクの着用については個人の判断となりますが、状況によっては試験会場において指示が出される場合がありますので、できるだけマスクの持参をお願いします。

<令和6年度入学試験の実施状況>

令和6年度入学試験は、8月期と2月期に本試験を実施した。

● 博士前期課程

8月期入試 筆記試験 令和6年8月26日、口述試験 8月27日

2月期入試 筆記試験、口述試験 令和7年1月28日

			志願者数	受験者数	合格者数	外国人留学生内合格者数
募集人員 (15名)	8月期入試	一般	17	15	11	0
		社会人	0	0	0	0
	2月期入試	一般	1	1	1	0
		社会人	0	0	0	0

● 博士後期課程

8月期入試 筆記試験 令和6年8月26日、口述試験 8月26日

		志願者数	受験者数	合格者数	外国人留学生内合格者数
募集人員 (8名)	8月期入試	3	3	3	0
	2月期入試	0	0	0	0

<その他の活動>

・留学を希望する外国人には、オンラインに於いて積極的に事前面接を実施した。

<次年度に向けた課題>

博士前期課程、後期課程ともに募集人員に満たないため、次年度は受験者数の増加に向けて、ポスター、パンフレット、Web ページを通じて積極的に広報を行うことにより、看護科学学位プログラムのアドミッション・ポリシーに見合う志願者を集めることとする。博士前期課程では、本学の看護学類生の進学者数の増加を目的に、有効な広報活動等について検討する必要がある。また、博士後期課程では、研究者、教育者や高度看護実践者の育成を目的に、本学博士前期課程からの進学者を推奨するとともに、広報活動等についても検討したい。

3) 広報・情報委員会

■今年度の活動目標

看護科学学位プログラムの入試について、ポスター、パンフレット、Web ページ

を通じて広報を展開する。

看護科学学位プログラム関係者(授業担当教員および学生)の Web ページを通じての情報活用を支援する。

■活動状況

<看護科学学位プログラムホームページの更新>

ホームページ(HP)日本語版および英語版の一部内容を修正し、外部者用・内部者用にそれぞれ内容を精査し、更新した。行事関連写真の追加、ニュースの提供など、迅速な更新に注力した。

<入試説明会の開催>

令和6年度看護科学学位プログラム入試説明会を2024年6月14日に開催した。参加者数合計は94名であり、参加者の所属は一般(他大学含む)が23名、看護学類3年生71名であった。カリキュラムの説明、入試に関する説明のほか、助産師養成課程の説明、在校生のメッセージ(博士前期、助産師養成課程、博士後期)、国際交流と協定校、各研究室の紹介を行った。終了後、希望者に対して研究室訪問を実施した研究グループもあった。入試説明会に関する情報の入手方法(重複回答可)では、「看護科学専攻のホームページの案内」9件、「教員からの情報提供」7件、「友人・知人・先輩からの情報提供」3件、「ポスターの案内」2件、「メーリングリストからの情報提供」1件であった。受験に際し参考になった項目(重複回答可)では、「研究領域紹介」11件、「入試に関する説明」8件、「在校生のメッセージ」7件、「助産師コースの説明」4件、「国際交流協定校等の説明」4件、「長期履修制度の説明」1件が挙げられた。参加者からの希望として、「在校生の受験対策」、「コース別に分かれて説明会」などの記述があった。

■目標の達成度、次年度に向けた課題

次年度以降もオンサイトでの入試説明会を実施する予定である。例年、「在校生メッセージ」は好評なので、企画内容は継続していく。また、大学院修了後の進

路の紹介や、研究領域紹介の時間を増やすなど、より本学学位プログラムの特色を鮮明に打ち出していく必要性も考えられる。さらに、今後も看護学類からの進学希望者を積極的に開拓するために、指導教員の顔が見える口コミによる広報活動を各教員が行っていくことが効果的であると思われる。

■目標の達成度、次年度に向けた課題

学外への有効的な情報発信をおこなうため、引き続き HP の充実を図っていく。同時に看護学類の卒業生を確保し続けられるよう、各教員が内部学類生への勧誘と広報を強化していく。他大学大学院の動向から、もう少し早い時期に大学院説明会を開催するということも検討していく必要がある。

入試に関しては、次年度も事前予告情報を早めに流していく。在学生確保の重要度は高いので、定期的に在学生のメーリングリストにも働きかけていく。

4)FD・自己点検評価委員会

本学位プログラムにおける FD 活動は、先駆的な看護研究及び教育を行なっている海外との学術協定校等との交流を通して、教員の教育力の向上と先進の取り組みを学ぶことにある。また、近年の組織構成員の再編成に伴い、教育・研究活動のリンケージ及び優れた研究成果の発信、より発展的な組織運営が喫緊の課題であると考えられる。

令和6年度は、少数精鋭の教員が卓越した国際共同研究を行っていくために、2回シリーズのFD活動を行った。

第1回目は、国立成育医療センター研究所政策科学研究部の竹原健二先生と青木藍先生を講師として、地理的に離れていても効果的なコラボレーションを促進するためにはコミュニケーション、プロジェクトのタイムライン、文化に対する理解、適応性が重要な要素となる。経験した円滑なコミュニケーションの実例紹介やタイムライン設定のコツを踏まえ、モンゴルと日本の学際的な共同研究の経験について講師の先生方が知見を共有した。第2回目は、Department of Nursing, College of Medicine, National Cheng Kung University(台湾国立成功大学)の Ching-Min Chen 教授を講師として、看護教育・研究・政策(台湾史上2人

目の看護師出身の国会議員)に関するこれまでの歩みについてご講演いただいた。第1回目・第2回目ともに、参加教員の満足度は高く、自由回答でも参加意義があったことが確認された。

今後も、より一層の組織構成員メンバーの結束の強化や、組織としてのビジョンとミッションの定着を狙ったFD企画を開催していく。同時に、参加人数が全員に近い数になるよう、周知を徹底し、企画内容によっては、大学院生も巻き込んで、参加を促進するようにしたいと考えている。

授業評価に関しては、全学共通のTWINSを用いたオンラインで全科目において実施し、学生からの評価を教員にフィードバックしている。今年度も全科目でフィードバックを行った。また学生からの評価を元に、カリキュラムや授業内容の検討を行い、いくつかの科目内容の改善や開講時期変更に向けての検討も実施した。

COVID-19による渡航制限等の解除も進む中、積極的に海外の提携大学ともつながりを深めていくとともに、教員の教育力の向上につながるようなFD活動の企画運営を進めていく。

5)ICT・国際活動委員会

昨年度に久々に実現した対面での国際交流を、今年度はさらに促進する年となった。海外からの来訪者については、4月19日に四川文化芸術学院の干乃明教授が来訪し、看護学科設立や国際交流に関する意見交換を対面で行った。また、10月1日から翌年1月31日までの4か月間、台湾成功大学よりChing-Min Chen教授を外国人受託研究員として受入れ、12月18日には、FDセミナー「Nursing Out Loud: A Nurse Scientist's Advocacy Story」の講師として登壇いただいた。

海外協定校との活動に関しては、ナムディン看護大学(ベトナム)との部局間協定手続きを進めるための活動予定リストを作成し、今後の交流促進の合意を得た。また、イリノイ大学シカゴ校、南インディアナ大学および聖アンソニー看護大学との協定期間を更新した。

昨年度より始まったガーナとの交流は教育・研究領域において継続しており、4

月 25 日には Zoom を用いた Joint Seminar を開催した。また、さくらサイエンスプログラム(A コース)は昨年度に続き今年度も採択され、「食文化と健康促進：食事、健康、長寿の探求」をテーマとした 7 日間のプログラムを実施した。12 月 11 日には、ガーナ側の教員(KNUST)との共同研究に関するオンラインミーティングも行っている。

ソーシャルインパクト創出支援事業関連の海外視察として、2 月にインドの Swami Rama Himalayan University、台湾の国立台湾成功大学および国立台湾大学、3 月にガーナの Kwame Nkrumah University of Science and Technology および University of Ghana を訪問した。

以上のように、2024 年度は対面での国際交流がさらに促進され、教育・研究分野での国際的な連携が強化された。海外からの研究者の受け入れや意見交換を行い、オンラインセミナーを開催した。海外協定校との連携強化が図られ、既存協定は更新された。さらに、国際的な視察も行われ、交流の拡大が進められた。なお 3 月には、インドの Swami Rama Himalayan University から大学院生 1 名を 4 か月間受け入れることが決定している。

4. 看護科学学位プログラムの施設・設備

1) 施設設備委員会

施設・設備委員会は、共同利用棟 B および健康医科学イノベーション棟を中心とした研究教育環境の充実と管理運営、会議室やセミナー室など専攻に関わる諸室の調整と有効活用を目標として活動している。

■本年度の施設・設備の整備状況

看護科学学位プログラム大学院生および教員に関連する医学医療系の取り組みとして以下のものがあげられる。

1. 研究室について、使用状況、院生数等を考慮した調整を心掛けた。

■今後の課題

1. セミナー室など予約スペースの適正な利用を促進し、看護科学学位プログラ

△の教育・研究環境が安全に保ち充実するよう努める。

Ⅱ. 教育活動

1. 教育内容及び方法

R3年4月より、改組前の看護科学専攻を母体とした「看護科学学位プログラム」が開設され、その教育理念のもとに組み立てられたカリキュラムを実施した。学位は、当該専攻で授与している「看護科学」を引き継いだ。

本学位プログラム(博士前期課程)では、看護科学の領域で扱われる課題で研究を行う研究者の養成を目指している。また、高度専門職者の養成課程として、助産師養成課程を提供している。いずれの課程でも科学的根拠に基づいた探究力、専門領域における実践力、看護の学際性、看護の感性と倫理観、国際通用性を目指す実践力を学生に修得させることで、看護実践の基礎になる専門知識・技術・実践能力を備えた看護職者を養成している。学生の達成度は、修士論文あるいは特定の課題研究(看護実践に活用できるエビデンスについての検討、あるいは、エビデンスに基づいた実践内容の評価について、研究として系統的にまとめられた成果物)によって最終的に評価している。

本学位プログラム(博士後期課程)では、学際的および国際的な視点に基づき、看護学の高度専門職者、教育者、研究者、政策・行政分野の看護・医療の専門家として専門的知識、技術を有するに留まらず、常に研究マインドを持って看護実践を検証していくことのできる人材を、さらに、看護の専門領域だけではなく、「学際性」と「科学性」に基づく新しい看護の技術や教育・研究方法を開発できる人材を、養成している。

カリキュラムの詳細は、授業科目一覧と各科目のシラバスを参照

2. 自発的な教育活動

3. 教育の成果と教育の質の向上及び改善のためのシステム

＜本年度の学位論文のテーマ＞

看護科学専攻博士後期課程

松田 順

看護師の倫理的レジリエンス尺度の作成と信頼性と妥当性の検討

看護科学学位プログラム博士後期課程

石井 あずさ

初回エピソード精神病患者とその家族を対象とした服薬アドヒアランス維持・向上のための看護介入プログラムの開発と評価

寺澤 瑛利子

月経周期に伴う心身の変調と日常生活における自律神経活動との関連

看護科学学位プログラム博士前期課程

青柳 沙佳

要介護認定を有する高齢精神疾患患者における精神科訪問看護の実態と要介護度悪化の要因の分析

小石川 由起子

経腹的超音波画像診断法を用いた座位における骨盤底機能評価の可能性の検討

坂場 菜子

発達障害傾向に起因する感覚異常を有する子どもに対する保育者の知識

と対応

佐藤 若葉

勤労者における ASD 特性ならびに社会的カモフラージュがメンタルヘルスとプレゼンティーズムに及ぼす影響

島田 早菜衣

初めて父親になる男性の乳児の泣きに対するストレス反応
—乳児の泣きに関する教育的動画視聴の有無による比較—

田中 幸恵

産後2週間における産後メンタルヘルスクリーニングと看護職者による母子間のボンディング形成支援の実際

谷口 育

PPAS 日本語版の開発と信頼性・妥当性の検討—乳児を養育する父親の愛着の実態調査と関連要因の探索—

永田 友実

熟練者と初学者における分娩シミュレータを用いた会陰保護実施時の視線の特徴

舟本 侑香

わが国の若年層における拳児希望と喫煙状況の関連

谷口 愛深

性成熟期女性の黄体期と月経期の Premenstrual Syndrome 症状と睡眠状態との関連

<FD 活動実績と今後の課題>

第1回 2024年10月18日(金)15:00~16:00

タイトル：ポストコロナの今、海外の研究者とコラボレーションするために必要なこと

What is Necessary to Collaborate with Overseas Researchers in the post-COVID Era?

概要：地理的に離れていても効果的なコラボレーションを促進するためには、コミュニケーション、プロジェクトのタイムライン、文化に対する理解、適応性が重要で、とくにコミュニケーションは共同研究を成功させる礎となる。明確で、頻繁で、包括的なコミュニケーションは、目標の一致を確実にし、信頼を高め、ワークスタイルや文化の違いから生じる誤解を緩和する。今回のFDでは、上述した円滑なコミュニケーションやタイムライン設定のコツを踏まえ、モンゴルと日本の学際的な共同研究の経験について講師の先生方が知見を共有した。

講師：青木藍先生（精神科医、国立成育医療センター研究所政策科学研究部 共同研究員）

竹原健二先生（疫学者、国立成育医療センター研究所政策科学研究部 部長）

会場：Teams を用いた遠隔配信、その後のビデオ配信

参加者：看護科学学位プログラム教員、看護学類教員

主催：看護科学学位プログラム 共催：看護学類

第2回 2024年12月18日（水）17:00～18:30

タイトル：Nursing Out Loud: A Nurse Scientist's Advocacy Story

概要：Ching-Min Chen 教授は台湾国立成功大学の著名な教授であり、台湾看護協会の前会長である。台湾史上2人目の看護師出身の国会議員でもあり、今回は、Chen 教授の看護教育・研究・政策に関するこれまでの歩みについてご講演いただいた。

講師：Ching-Min Chen 教授（Department of Nursing, College of Medicine, National Cheng Kung University）

会場：医学4B棟209号室

参加者：看護科学学位プログラム教員、看護学類教員

主催：看護科学学位プログラム 共催：看護学類

2024年度看護学類/看護科学学位プログラム
合同Faculty Developmentセミナー 第1回

ポストコロナの今、
海外の研究者とコラボレーションするために
必要なこと

日時：2024年10月18日（金）15:00～16:00
方法：TEAMSを使ったオンライン

対象者：看護学類教員
看護科学学位プログラム大学院生

ゲスト講師プロフィール

青木藍先生
（精神科医、国立成育医療センター研究所政策科学研究部 共同
研究員）
竹原健二先生
（疫学者、国立成育医療センター研究所政策科学研究部 部長）

モンゴルでおこなった介入研究の他、ブラジル、アングラ、
カンボジアなど国際共同研究の経験豊富な先生方から
国際研究のコツについて学びましょう

事前申し込みは不要です
お問い合わせ：FD・自己点検委員会（安梅&トゴバタラ）

2024年度看護科学学位プログラム/看護学類/ICT・国際活動委員会/FD・自己点検委員会
合同Faculty Developmentセミナー

Nursing Out Loud:
A Nurse Scientist's
Advocacy Story

Ching-Min Chen教授は台湾国立成功大学の
著名な教授であり、台湾看護協会の前会長
です。台湾史上2人目の看護出身の国会
議員でもあります。今回は、Chen教授の
看護教育・研究・政策に関するこれまでの
歩みについてご講演いただきます。
予約不要ですので、直接会場にお越しくだ
さい。（同時通訳はありません）

対象者 看護学類教員
看護科学学位プログラム大学院生

講師
Department of Nursing,
College of Medicine,
National Cheng Kung University
Professor Ching-Min Chen
RN, DNS, FAAN, FFMRCIS

日時 2024年12月18日（水）
17:00～18:30

場所 4B棟 209号室

次世代看護に向けたFD教育には一定の時間をかけて丁寧に行うことが重要であるとして、令和7年度も引き続き同様のテーマで開催し、ビジョンとミッションの定着を狙う。今後も組織力および教員の教育力の向上につながるようなFD活動の企画運営を進めていくことが課題である。授業評価に関しては、本年度からはTWINSを用いたオンラインでの実施とした。全科目において実施しており、学生からの評価を分析することができた。

今後も、積極的に海外との提携大学ともつながりを深めていくとともに、教員の教育力の向上につながるようなFD活動の企画運営を進めていくことが課題である。

4. 大学院教務・看護科学事務の支援体制

看護科学専攻・学位プログラムは、大学院教務ならびに看護科学事務から学生に対してさまざまな支援を受けている。主な支援内容を下記にまとめる。

< 大学院教務の学生に関する主な支援業務 >

1. 看護科学学位プログラムの入学試験

2. 学位記授与式,新入生オリエンテーション
3. 大学院生のTA関係業務
4. 外部資金申請関係(文科省等)
5. 学生の派遣・受け入れ関係
6. 非正規性受入れ関係(科目等履修生,研究生)
7. 成績管理関係
8. 非常勤講師関係
9. 学籍異動関係
10. 授業料債権関係
11. 学外実習関係
12. 専修免許関係
13. 調査・統計関係

<看護科学事務の学生に関する主な業務>

1. 相談対応
2. 入学時オリエンテーション準備
3. 提出物等の受け取り
4. 郵便物の配布
5. 教室予約受付・管理(共同利用棟 B103・106・107・204・205・206・207)
6. ロッカーキーの貸出・管理
7. 印刷機、備品、消耗品(トナー・インク等)の管理
8. TA任用に関する手続き・管理
9. 学外実習に関する手続き・管理
10. 一斉メールの配信:主に大学院教務,学生支援からの依頼による学生への配信
11. 各発表会、審査会サポート
12. 入試の準備・手伝い

13. 学位記授与式の準備・手伝い
14. 予算管理
15. 看護科学学位プログラム HP 管理補助

Ⅲ. 研究活動

1. 教員・学生の個人業績

※教員の個人業績については TRIOS 参照

<https://trios.tsukuba.ac.jp/ja>

A. 看護理工学・ウィメンズヘルス看護学・発達支援学(助産師養成)グループ

- 教授 岡山久代
- 准教授 岩田裕子
- 助教 大川加奈
- 准教授 水野智美

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 3年 今野和穂

<学会発表>

- 1) Konno, K., Okayama, H. (2024). Symptoms Experienced by Japanese Women during Menopausal Transition: Narratives from Focus Group interviews. 19th World Congress on Menopause (IMS). Melbourne, Australia. 10月発表
- 2) 今野和穂, 岡山久代. (2024). 更年期にある女性が感じる主観的な心身の状態や変化に関する文献検討. 第22回日本更年期と加齢のヘルスケア学会. オンライン. 日本. 10月発表.

<競争的資金獲得状況>

- 1) 今野和穂. (分担者:岡山久代). 2023~2025年度, 基盤研究 C. 閉経移行期症状のセルフアセスメントシートの作成と妥当性の検証.

<研修会の講演>

- 1) 今野和穂. (2024). 日本更年期と加齢のヘルスケア学会 オンライン研修会基礎講座「女性の身体 解剖と生理」

< 社会活動 >

- 1) 東京都中央区健康チェック ママの健康チェック プレ更年期担当

< 公的な委員会 >

- 1) 更年期と加齢のヘルスケア学会幹事

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 3年 壹岐聡恵

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 3年 寺澤瑛利子

< 論文 >

- 1) Okamoto R, Terasawa E, Usui A, Matsushima M, Okayama H. (2024)
The effects of online facial muscle training with resonance vocalization on mental health in postpartum women: A single-arm pilot study. Women's Health.

< 学会発表 >

- 1) Terasawa E, Aoki M, Okayama H. (2025). Characterization of heart rate and R-R interval obtained by smartwatch during follicular, luteal, and menstrual phases to track the menstrual cycle. 16th Congress of the European society of Gynecology, Riga,.
- 2) Okayama H, Terasawa E, Aoki M. (2025). Characterization of PMS questionnaire responses in women based on cerebral blood flow during cognitive tasks. 16th Congress of the European society of Gynecology, Riga.
- 3) 寺澤瑛利子, 青木真希子, 浅野美礼, 岡山久代. (2024). 月経前症候群を有する女性の日常生活下における心拍数と心拍変動の特徴 第12回看護理工学会学術集会, 石川.
- 4) 和田秋花, 寺澤瑛利子, 岡山久代 (2024). 分娩介助中の児頭娩出時の屈曲角度分析—熟練助産師および初学者との比較— 第12回看護理工学会学術集会, 石川
- 5) 高橋舞衣, 寺澤瑛利子, 岡山久代. (2024). 月経前症候群を有する

女性の睡眠時間と心拍数の特徴 第12回看護理工学会学術集会, 石川.

- 6) 鈴木雅登, 青木真希子, 西村舞, 寺澤瑛利子, 岡山久代. (2024) 卵胞期の気分指標分類による成人女性の自律神経活動の評価—月経前症候群の客観的識別方法の検討— 第12回看護理工学会学術集, 石川
- 7) 平田珠梨, 青木真希子, 寺澤瑛利子, 田中幸恵, 岡山久代. (2024) 月経期における吸水ショーツの着用が不快症状, 健康関連 QOL (Quality of life) および睡眠に与える影響 第38回日本助産学会学術集会, 東京
- 8) Sanae Shimada, Chisato Kameyama, Makiko Aoki, Eriko Terasawa, Juri Hirata, Momona Noguchi, Akane Fujioka, Mayui Noborisaka, Mio Nishiyama, Kumiko Isu, Kumiko Asakawa, Hiroko Iwata, Hisayo Okayama. (2024). Local Healthcare Supporters' Perspectives in Assessment of Postpartum Mothers. UTokyo Nursing International Conference 2024, Tokyo, Japan.

<書籍>

- 1) 寺澤瑛利子, 岡山久代. (2024). 生体センシング技術の開発とヘルスケア、遠隔診断への応用 5章 第3節 スマートウォッチの光電式容積脈派記録法による心拍数の妥当性の検討. 株式会社技術情報協会

<公的な委員会>

- 1) 看護理工学会 広報委員

<競争的資金>

- 1) 寺澤瑛利子. 2024年～2025年度. 研究活動スタート支援. 月経随伴症状と日常生活の自由行動下で連続的に計測した自律神経活動との関連.

□看護科学学位プログラム 博士後期課程3年 白井淳美

<論文>

- 1) Okamoto R, Terasawa E, Usui A, Matsushima M, Okayama H. (2024)
The effects of online facial muscle training with resonance vocalization on mental health in postpartum women: A single-arm pilot study. Women's Health.

<学会発表>

- 1) 臼井淳美, 中島久美子.(2024). 保育所における母乳育児支援の実態調査. 第38回日本母乳哺育学会学術集会, 東京, 日本.

<競争的資金>

- 1) 臼井淳美. (分担者: 中島久美子). 2020~2024年度, 基盤研究 C. 保育所における母乳育児支援プログラム開発と介入効果の検証.

<公的な委員会>

- 1) 日本母乳哺育学会 評議員, 教育委員

<社会活動>

- 1) 「いのちの教育」 2024.7.10 (埼玉県加須市立加須小学校 4年生)
- 2) 「いのちの教育」 2024.12.11 (茨城県古河市立駒羽根小学校 4年生)

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 2年 宇佐美絵理

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 2年 田邊里奈

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 2年 吉本光希

<学会発表>

- 1) Mitsuki Nojima, Hisayo Okayama. (2025). Stress felt by mothers in the Neonatal Intensive Care Unit. 16 CONGRESS EUROPEAN SOCIETY Gynecology. Latvia.
- 2) Mitsuki Nojima, Hisayo Okayama. (2025). Stress felt by mothers in the Neonatal Intensive Care Unit : Concept Analysis. 15th INC & 28th EAFONS. Korea.

- 3) Mitsuki Yoshimoto, Keita Sasaki, Naomi Omi, Kei Ebina, Kazuki Kioka, Taketo Yamaguchi, Hidetoshi Takada, Hiroko Fukushima, Ryoko Suzuki, Rie Wakimizu. (2024). Parents' Feelings about Children's Diet During Chemotherapy in Japan. UTokyo Nursing International Conference 2024. Japan,
- 4) Mitsuki Yoshimoto, Hisayo Okayama. (2024). Trends in Japanese Nursing Research on Parents of Infants Admitted to the NICU. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars. Hong Kong,
- 5) 吉本光希, 岡山久代. (2024). 妊娠期と産褥期の母親の唾液アミラーゼに影響を及ぼす要因に関する文献検討. 看護理工学会, 日本,
- 6) 海老名慧、木岡一輝、山口岳斗、吉本光希、佐々木啓太、浮田(柴崎)千絵里、北久保佳織、福島紘子、鈴木涼子、高田英俊、涌水理恵. (2024). 陽子線治療を行った小児がん患児における食事摂取状況について. 日本臨床栄養代謝学会関越支部 第10回支部学術集会. 日本.
- 7) 佐々木啓太、吉本光希、海老名慧、木岡一輝、山口岳斗、福島紘子、鈴木涼子、高田英俊、麻見直美; 涌水 理恵. (2024). 化学療法を受ける小児の食事・栄養素摂取量および栄養バランスに対する看護支援. 第71回日本小児保健協会学術集会. 日本.

<その他>

- 1) 次世代研究者挑戦的研究プログラム採択
- 2) 2024年度 人間総合科学学術院特別賞 受賞
- 3) 15th INC&28th EAFONSにて Best Poster Presentation Award 受賞
- 4) 山路ふみ子専門看護教育研究助成基金 獲得
- 5) 次世代研究者挑戦的研究プログラム採択

□看護科学学位プログラム 博士後期課程1年 和田秋花

<学会発表>

- 1) 和田秋花, 寺澤 瑛利子, 岡山久代. (2024). 分娩介助中の児頭娩出時の屈曲角度分析 —熟練助産師および初学者との比較—. 第12回

看護理工学学術集会，石川，日本

<その他>

- 1) 次世代研究者挑戦的研究プログラム採択

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2年 小石川由起子

<論文>

- 1) 田中幸恵，小石川由起子，島田早菜衣，永田友実，谷口愛深，岡山久代. (2024). 大学院生による 2023 年度プレコンセプションケア啓発セミナーの実践報告-HPV ワクチンキャッチアップ接種に焦点を当てて-. 茨城県母性衛生学会誌. 42. 36-41

<学会発表>

- 1) 小石川由起子，内藤紀代子，岡山久代. (2024). 超音波画像診断法を用いた女性の骨盤底機能評価方法に関する文献検討. 第 12 回看護理工学会学術集会，石川，日本.

<その他>

- 1) 田中幸恵，小石川由起子，島田早菜衣，永田友実，谷口愛深，岡山久代.(2024). プレコンセプションケア-「知る」ことは「守る」こと. 2024 年度 T-ACT 活動報告会，最優秀賞 受賞.

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2年 坂場菜子

<学会発表>

- 1) 坂場菜子，水野智美，徳田克己. (2024). エスカレーターへの子どもの乗せ方から見た名古屋市条例の効果. 第 77 回日本保育学会，online，日本.
- 2) 坂場菜子，水野智美，徳田克己. (2024). 令和 4 年度版の小学校生活科の教科書における障害の扱われ方. 第 62 回 日本特殊教育学会，福岡，日本.
- 3) 坂場菜子，水野智美，徳田克己. (2024). 都道府県庁、市役所のバリアフリーの問題点 4-北海道・東北-. 第 20 回障害理解学会，online，

日本.

- 4) 水野智美, 坂場菜子, 徳田克己. (2024). 都道府県庁、市役所のバリアフリーの問題点 3—中部・関西—. 第 20 回障害理解学会, online, 日本.tui

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2 年 島田早菜衣

< 論文 >

- 1) 田中幸恵, 小石川由起子, 島田早菜衣, 永田友実, 谷口愛深, 岡山久代. (2024). 大学院生による 2023 年度プレコンセプションケア啓発セミナーの実践報告-HPV ワクチンキャッチアップ接種に焦点を当てて-. 茨城県母性衛生学会誌. 42. 36-41

< 学会発表 >

- 1) Sanae Shimada, Chisato Kameyama, Makiko Aoki, Eriko Terasawa, Juri Hirata, Momona Noguchi, Akane Fujioka, Mayui Noborisaka, Mio Nishiyama, Kumiko Isu, Kumiko Asakawa, Hiroko Iwata, Hisayo Okayama. (2024). Local Healthcare Supporters' Perspectives in Assessment of Postpartum Mothers. UTokyo Nursing International Conference 2024, Tokyo, Japan

< その他 >

- 1) 田中幸恵, 小石川由起子, 島田早菜衣, 永田友実, 谷口愛深, 岡山久代. (2024). プレコンセプションケア-「知る」ことは「守る」こと. 2024 年度 T-ACT 活動報告会, 最優秀賞 受賞.

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2 年 田中幸恵

< 論文 >

- 1) 田中幸恵, 小石川由起子, 島田早菜衣, 永田友実, 谷口愛深, 岡山久代. (2024). 大学院生による 2023 年度プレコンセプションケア啓発セミナーの実践報告-HPV ワクチンキャッチアップ接種に焦点を当てて-. 茨城県母性衛生学会誌. 42. 36-41

<学会発表>

- 1) 田中幸恵, 岩田裕子, 岡山久代. (2024). 母子間のボンディングを支援する周産期看護職者のメンタルヘルスリテラシー: 文献レビュー. 第 20 回日本周産期メンタルヘルス学会, 東京, 日本.
- 2) 平田珠梨, 青木真希子, 寺澤瑛利子, 田中幸恵, 岡山久代. (2024). 月経期における吸水ショーツの着用が不快症状、健康関連 QOL(Quality of life)および睡眠に与える影響. 第 38 回 日本助産学会学術集会, online, 日本.

<その他>

- 1) 田中幸恵, 小石川由起子, 島田早菜衣, 永田友実, 谷口愛深, 岡山久代.(2024). プレコンセプションケア-「知る」ことは「守る」こと. 2024 年度 T-ACT 活動報告会, 最優秀賞 受賞.

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2 年 永田友実

<論文>

- 1) 永田友実, 岡山久代, 金澤悠喜.(2024). 精神疾患を抱えた妊産褥婦に対する多職種連携の連携体制の文献検討. 茨城県母性衛生学会誌, 42. 7-13
- 2) 田中幸恵, 小石川由起子, 島田早菜衣, 永田友実, 谷口愛深, 岡山久代. (2024). 大学院生による 2023 年度プレコンセプションケア啓発セミナーの実践報告-HPV ワクチンキャッチアップ接種に焦点を当てて-. 茨城県母性衛生学会誌. 42. 36-41

<学会発表>

- 1) 永田友実, 鳥居万椰, 村上貴人, 落合陽一, 岡山久代. (2024). 熟練者と初学者の看護場面における視線動作の特徴に関する文献検討. 第 12 回看護理工学会学術集会, 石川, 日本.

<その他>

- 1) 田中幸恵, 小石川由起子, 島田早菜衣, 永田友実, 谷口愛深, 岡山

久代.(2024). プレコンセプションケア-「知る」ことは「守る」こと. 2024 年度 T-ACT 活動報告会, 最優秀賞 受賞.

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2 年 谷口愛深

< 論文 >

- 1) 田中幸恵, 小石川由起子, 島田早菜衣, 永田友実, 谷口愛深, 岡山久代.(2024). 大学院生による 2023 年度プレコンセプションケア啓発セミナーの実践報告-HPV ワクチンキャッチアップ接種に焦点を当てて-. 茨城県母性衛生学会誌. 42. 36-41

< その他 >

- 1) 田中幸恵, 小石川由起子, 島田早菜衣, 永田友実, 谷口愛深, 岡山久代.(2024). プレコンセプションケア-「知る」ことは「守る」こと. 2024 年度 T-ACT 活動報告会, 最優秀賞 受賞.

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 1 年 小松芽以

< 学会発表 >

- 1) 小松芽以, 平田珠梨, 岡山久代.(2024). 20 代女性の運動習慣と月経期における月経随伴症状との関連. 第 12 回看護理工学会学術集会, 石川, 日本.

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 1 年 高橋舞衣

< 学会発表 >

- 1) 高橋舞衣, 寺澤瑛利子, 岡山久代.(2024). 月経前症候群を有する女性の睡眠時間と睡眠中の心拍数の特徴. 第 12 回看護理工学会学術集会, 石川, 日本.

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 1 年 油布桜子

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 1 年 渡邊鈴乃

< 学会発表 >

- 1) 渡邊鈴乃, 岡山久代, 岩田裕子.(2024). ビブリオセラピーを用いた母

子のメンタルヘルスケアに関する文献レビュー. 第 43 回 茨城県母性衛生学会, 茨城, 日本.

B. がん看護・ケアシステムグループ

■教授 水野道代

■准教授 伊藤智子

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 3 年 阿部愛子

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 3 年 成尾美樹

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 3 年 Chen Hong

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 1 年 呉嘉慧

C. 国際発達ケア・発達支援看護学研究グループ

■教授 安梅勅江

■准教授 涌水理恵

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 2 年 佐々木啓太

< 論文 >

- 1) 越智向日葵, 佐々木啓太, 谷口育, 涌水理恵. (in press). 障害児通所支援事業所を利用する児を養育する家族における「主養育者の養育負担感」と「家族内のコミュニケーション」の関連性の確認および養育負担感に関連する要因の探索. *家族看護学研究*.
- 2) Rurie Namiki, Keita Sasaki, Iku Taniguchi, Rie Wakimizu. (2024). Literature Review on Support for Children and Families Experiencing Parental Bereavement. *Open Journal of Nursing*. 14(4), 139–163.

<https://doi.org/10.4236/ojn.2024.144010>.

- 3) Keita Sasaki, Rie Wakimizu(2024). Development and validation of a Japanese version of The Quality of Discharge Teaching Scale-Parent Form (JQDTS-PF): A cross-sectional observational study. *Journal of pediatric nursing*, 75, 133-139.

<https://doi.org/10.1016/j.pedn.2023.12.018>.

<学会発表>

- 1) 林理佳, 佐々木啓太, 涌水理恵. (2024). NICU への入院を経て退院する医療的ケア児と家族への退院支援専従看護師等による支援に関する実態調査. 日本小児看護学会第 34 回学術集会 / 2024-07-06--2024-07-07.
- 2) 佐々木啓太, 吉本光希, 海老名慧, 木岡一輝, 山口岳斗, 福島紘子, 鈴木涼子, 高田英俊, 麻見直美, 涌水理恵. (2024). 化学療法を受ける小児の食事・栄養素摂取量および栄養バランスに対する看護支援. 第 71 回日本小児保健協会学術集会 / 2024-06-21--2024-06-23.
- 3) 越智向日葵, 佐々木啓太, 谷口育, 涌水理恵.(2024). 障害児を養育する家族における「主養育者の養育負担感」と「家族内のコミュニケーション」の関連. 第 31 回日本家族看護学会学術集会 / 2024-09-14--2024-09-15.
- 4) Iku Taniguchi, Keita Sasaki, Himari Ochi, Rie Wakimizu, Yoshiyuki Kawano. (2024). Literature Review Focusing on the Current Status and Function of Remote Carer Support in Japan. EAFONS 2024: Generating Impact Through Doctoral Nursing Education / 2024-03-06--2024-03-07.
- 5) Riko Asano, Keita Sasaki, Iku Taniguchi, Rie Wakimizu. (2024). Changes in Nursing Students' Feelings toward Children through the Nursery Practice. EAFONS 2024: Generating Impact Through Doctoral Nursing Education / 2024-03-06--2024-03-07.

- 6) Riko Asano, Rie Wakimizu, Iku Taniguchi, Marise Kasai, Keita Sasaki (2025). A content analysis of integrated learning acquired by undergraduate nursing students during a three-day practicum with children in multiple Japanese preschools: using post-practicum focus group interviews. EAFONS 2025: Generating Impact Through Doctoral Nursing Education/ 2025-02-13--2025-02-14.

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2年 谷口育

<論文>

- 1) 越智向日葵, 佐々木啓太, 谷口育, 涌水理恵. (in press). 障害児通所支援事業所を利用する児を養育する家族における「主養育者の養育負担感」と「家族内のコミュニケーション」の関連性の確認および養育負担感に関連する要因の探索. 家族看護学研究.
- 2) Rurie Namiki, Keita Sasaki, Iku Taniguchi, Rie Wakimizu. (2024). Literature Review on Support for Children and Families Experiencing Parental Bereavement. Open Journal of Nursing. 14(4), 139-163. <https://doi.org/10.4236/ojn.2024.144010>.

<学会発表>

- 1) 越智向日葵, 佐々木啓太, 谷口育, 涌水理恵.(2024). 障害児を養育する家族における「主養育者の養育負担感」と「家族内のコミュニケーション」の関連. 第31回日本家族看護学会学術集会/2024-09-14-2024-09-15.
- 2) Riko Asano, Keita Sasaki, Iku Taniguchi, Rie Wakimizu. (2024). Changes in Nursing Students' Feelings toward Children through the Nursery Practice. EAFONS 2024: Generating Impact Through Doctoral Nursing Education/ 2024-03-06--2024-03-07.
- 3) Riko Asano, Rie Wakimizu, Iku Taniguchi, Marise Kasai, Keita Sasaki (2025). A content analysis of integrated learning acquired by

undergraduate nursing students during a three-day practicum with children in multiple Japanese preschools: using post-practicum focus group interviews. EAFONS 2025: Generating Impact Through Doctoral Nursing Education/ 2025-02-13--2025-02-14.

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 1年 葛西茉莉

<学会発表>

- 1) 葛西茉莉聖, 涌水理恵(2024). 付き添いがある長期入院児のきょうだい支援の検討. 第33回日本外来小児科学会年次集会/2024-09-07--2024-09-08
- 2) Riko Asano, Rie Wakimizu, Iku Taniguchi, Marise Kasai, Keita Sasaki (2025). A content analysis of integrated learning acquired by undergraduate nursing students during a three-day practicum with children in multiple Japanese preschools: using post-practicum focus group interviews. EAFONS 2025: Generating Impact Through Doctoral Nursing Education/ 2025-02-13--2025-02-14.

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 1年 川崎公暉

D. 地域健康・公衆衛生看護学研究グループ

- 教授 山海知子
- 准教授 大宮朋子
- 助教 井坂ゆかり

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 3年 石井あずさ

<学会発表>

- 1) Azusa Ishii, Naoko Deguchi, Tomoko Omita, Tomoko Sankai. (2025). The process by which psychiatric home care nurses support

patients with first-episode psychosis living with medication: a qualitative descriptive study, 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 3年 清水幹子

<論文など>

- 1) 清水幹子(2024).特集 開業助産師の内診技術を分娩アセスメント 陣痛、Bishop スコア、回旋、全身もしっかり評価！介入のタイミングを逃さない！06児頭下降度、児頭回旋,ペリネイタルケア 43(2),170-173.
- 2) 清水幹子(2024).医学書院座談会「助産所のお産」を見つめ直し、未来につなぐ、助産所と嘱託医療機関による継続的な周産期管理で地域の妊娠・出産・育児を支援する意義とは,助産雑誌,78(1)72-79.
- 3) 清水幹子(2024).[0インタビュー]助産師がつくるユースウェルネスKUK UNAインタビューアとして参加,助産雑誌,78(6)556~560.

□看護科学学位プログラム博士後期課程 3年 氏家寿美子

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2年 高松栞(休学中)

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2年 青柳沙佳

<学会発表>

- 1) 青柳沙佳,伊藤智子,長谷川正彦,富田真紀子,小林秀,山海知子,田宮菜奈子(2024). 精神科訪問看護を利用する高齢者の3年間の要介護度推移に関連する要因の分析. 第83回日本公衆衛生学会総会(札幌)

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2年 佐藤若葉

<学会発表>

- 1) 佐藤若葉 (2024). 社会的カモフラージュの特性と課題 文献検討を通して. 第89回日本健康学会総会(東京)

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2年 舟本侑香

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 1年 小倉朋美

E. グローバルヘルス看護学グループ

■教授 柴山大賀

■准教授 菅谷智一

■助教 トゴバタラ・ガンチメゲ

■助教 工藤理恵

■助教 阿部吉樹

□看護科学専攻博士後期課程 3年 金城一平

□看護科学専攻博士後期課程 3年 宮原めぐみ

□看護科学学位プログラム博士後期課程 3年 見延充美

<論文>

- 1) Daichi Sugawara, Atsumi Iikura, Syohei Miyamoto, Akihiro Masuyama, Kanako Nakazawa, Keigo Hatto, Ayaka Matsumoto, Lon J. Van Winkle, Shane L. Rogers. Examination of the reliability and validity of the Japanese version of the 10-item reflective practice questionnaire. *Reflective practice*, 26(1), 1-12.

<学会発表>

- 1) 高田大輔, 飯倉充美. (2024). 僻地に住む独居高齢者へのビデオ通話による社会的交流促進の効果と課題. 日本地域福祉学会第38回大会. 東京. 日本
- 2) 飯倉充美, 齋藤佑見子, 松原由佳. (2024). ICTを活用したディープ・ア

クティブラーニングが社会人基礎力に与える効果の検証. 日本看護学教育学会第34回学術集会. 東京. 日本

- 3) IHKURA Atsumi, SAITO Yumiko. (2024). An Investigation into the Process of Constructing Work Engagement for Novice Nurses. The 44th Annual Conference of Japan Academy of Nursing Science. Kumamoto. Japan

<競争的資金>

- 1) 飯倉充美. 2021年～2024年度. 日本学術振興会科学研究費助成事業 研究活動スタート支援. 新人看護師のワーク・エンゲイジメントと強化方略の検討.
- 2) 飯倉充美, 菅原大地, 齋藤佑見子, 川口孝泰. 2022～2026年度. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C). 女性消防吏員の職務継続に関する基礎研究.
- 3) 高田大輔, 飯倉充美. 2022～2024年. 公益財団法人日本生命財団実践的研究助成 若手実践的課題研究助成. 僻地に住む独居高齢者に対する社会的交流促進のアウトリーチ支援.

<社会活動>

- 1) TEAと質的探究学会第4回大会 実行委員
- 2) ポジティブ心理学研究会 広報担当

□看護科学学位プログラム博士後期課程3年 Munkhbaatar Bolorchimeg

□看護科学学位プログラム博士後期課程3年 椎葉奈子

<学会発表>

- 1) Nami Shiiba, Eimi Nakada, Rie Kudoh, Taiga Shibayama. (2024). Collaboration with the Interpreters in Multicultural Health Care Research: A Scoping Review Protocol. TGSW2024. October 3rd, 4th.
- 2) 椎葉奈子, 杉本敬子, ラックチャンクンティ, 入山美保. (2024). 在日外国人妊産婦への子育て支援情報の課題とニーズ. 日本国際看護学会

第 8 回学術集会. 10 月 5 日, 6 日.

- 3) 杉本敬子, 椎葉奈子. (2024). 在日外国人妊産婦が経験する地域支援. 日本国際看護学会 第 8 回学術集会. 10 月 5 日, 6 日.

< 社会活動 >

- 1) 多文化子育てコミュニティ にほんご で おしゃべり!

□看護科学学位プログラム博士後期課程 2 年 中田えいみ

□看護科学学位プログラム博士後期課程 2 年 Enkhbayar Munkhtuya

< 学会発表 >

- 1) Munkhtuya, Enkhbayar., Ganchimeg, Togoobaatar., Taiga, Shibayama. (2023). Determinants of self-care behaviors among heart failure patients in Mongolia. September 26-27. Frontiers of Medical & Life sciences, Tsukuba conference 2023, Tsukuba, Japan. Poster

□看護科学学位プログラム博士後期課程 2 年 吉田多紀

< 学会発表 >

- 1) Taki Yoshida, Taiga Shibayama (Supervisor(2024)), Literature Review on the Economic Burden in People with Type 2 Diabetes, TGSW2024. October 3rd, 4th.

< 執筆 >

- 1) 吉田多紀, 日本糖尿病教育・看護学会編集 (2024). 第7章 事例を通して考えるフットケア④足潰瘍の既往のある事例、⑤足趾切断後の事例, 糖尿病看護フットケア技術 [第4版], 日本看護協会出版会, p 214-225.
- 2) 吉田多紀(2024).全国日本の散歩道, 自然や歴史を満喫できる 茨城県つくば市北条を巡る, 月刊糖尿病ライフさかえ 6 月号, 日本糖尿病協会, p44-45

< 社会活動 >

- 1) 日本看護協会看護研修学校糖尿病看護認定看護師教育課程 非常勤講師(科目名:糖尿病の治療法と生活調整・療養支援 I:セルフモニタリングと血糖パターンマネジメントの関係、科目名:血糖パターンマネジメント:血糖パターンマネジメントの概念、血糖パターンに影響する要因)
- 2) 日本糖尿病教育・看護学会 評議員
- 3) 日本糖尿病教育・看護学会 将来検討委員会委員
- 4) 日本糖尿病教育・看護学会 国際交流委員会委員
- 5) 日本フットケア・足病医学会 評議員
- 6) 日本フットケア・足病医学会 社会保険委員会委員
- 7) 日本糖尿病療養指導士認定機構 編集委員
- 8) 日本慢性疾患重症化予防学会 監事
- 9) 第29回日本糖尿病教育・看護学会学術集会一般演題(口演)在宅療養支援 座長. 京都

□看護科学学位プログラム博士後期課程 1年 Damdinsuren Ishinkhorol

<学会発表>

- 1) Damdinsuren,Ishinkhorol Yanjmaa Enkhjargal Evaluation Physical Activity of Adults Type 2 Diabetes Mellitus patients in Mongolia. 第67日本糖尿病学会年次学術集会 P.84-6 2024.5.19

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2年 田澤彩乃

□看護科学学位プログラム 博士前期課程1年 金佳延

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 1年 三林里帆

<学会発表>

- 1) 菅谷智一, 三林里帆, 菅谷瑛子. (2024). 精神科領域における森林保健の一考察。第14回日本森林保健学会学術集会, 茨城.
- 2) 三林里帆, 菅谷智一. (2024). 本邦の精神科領域におけるリハビリ研究の動向。第18回看護教育研究学会学術集会, 東京.

- 3) 三林里帆, 菅谷智一, 森 千鶴. (2025). 統合失調症の病識のパラドクスの検討. 第 26 回日本リハビリテーション連携科学学会, 東京.
- 4) 金子美咲, 菅谷瑛子, 三林里帆, 菅谷智一, 田村昌士, 神谷純子. (2025). BVC 導入による看護師の暴力アセスメント自信度の変化～大学病院精神科病棟における調査～. 第 26 回日本リハビリテーション連携科学学会, 東京.

□看護科学学位プログラム 博士前期課程1年 兪响玲

F. 療養調整看護学研究グループ

■教授 落合良太

■准教授 目麻里子

■助教 山下美智代

□看護科学学位プログラム博士後期課程 3年 平栗智美

<競争的資金>

- 1) 平栗智美. 公益信託山路ふみ子専門看護教育研究助成基金 第 34 回(2024 年度)研究助成「腹膜透析患者の療養生活を支える訪問看護師を対象にした腹膜透析に関する教育プログラム開発と有用性の検討」
- 2) 平栗智美. 公益財団法人フランスベッド・ホームケア財団 令和 6 年度(第 35 回)研究助成「アシステッド腹膜透析における訪問看護師の看護実践に関する質的研究」

□看護科学学位プログラム博士後期課程 2年 古田敦子

<競争的資金>

- 1) 古田敦子. 公益信託山路ふみ子専門看護教育研究助成基金 第 34 回(2024 年度)研究助成. 筋萎縮性側索硬化症患者の治療法や療養生活の選択時におけるアドバンス・ケア・プランニングに関する質的研究

< 社会活動 >

- 1) 古田敦子. 日本 ALS 協会茨城支部運営委員
- 2) 古田敦子. 令和 6 年度 東京都難病相談・支援センター 筋萎縮性側索硬化症 患者・家族交流会 ボランティア
- 3) 古田敦子. 日本 ALS 協会茨城県支部交流会 ボランティア
- 4) 古田敦子. 令和 6 年度 理学療法科運動療法特別授業「ALS 患者様との交流」 ボランティア

□看護科学学位プログラム博士前期課程 1 年 樺山茜

□看護科学学位プログラム博士前期課程 1 年 湊谷亮介

IV. 大学院生支援

1. 学生数の状況

1) 入学者および修了者数(再入学生を含める)

	入学者数	修了者数	
		春学期	秋学期
博士前期	12 名	0 名	10 名
博士後期	3 名	0 名	3 名

2) 在籍学生数、うち休学者数 2025 年 1 月末現在

	在校生数	休学者数
博士前期課程 1 年	12 名	0 名
2 年	12 名	1 名
博士後期課程 1 年	3 名	0 名
2 年	7 名	3 名
3 年	19 名	6 名
その他		

研究生	0名
退学者	1名

2. 大学院生支援委員会の活動

1) 新入生オリエンテーションの実施

4月5日(金)14時30分より共同利用棟B講義室1において対面で実施した。

2) 新入生歓迎会の実施

4月5日(金)16時00分より共同利用棟B講義室2において実施した。

3) 研究成果発表のための国内外学会等への参加派遣に伴う旅費支援の提案と支援対象に関する審議

12月20日〆切にて募集を行い、3名から3件の申請があった。2025年1月7日の教育会議にて審議した。

4) 看護科学専攻・学位プログラムにおける「学生支援対応チーム」^{注1)}としての活動

- a. 様々な問題を抱えた学生に対するメンタル面での支援を目的とした面談の実施：随時(できるだけ複数人体制での対応を心がけた)
- b. 休学および復学志望者への面接・相談：随時(大学院生支援委員長)
- c. 指導および就学困難なケースへの支援と面接等への同席：随時
- d. その他

5) その他の活動

- a. TA、TF、RAの時間配分
- b. 人間総合科学学術院賞、看護科学学位プログラム長賞候補者の推薦順位付け

令和5年12月時の看護科学学位プログラム教育会議において、「看護科学学位プログラムの賞の申し合わせ」に則り、受賞候補者として指導教員より推薦された前期課程修了予定者5名、後期課程修了者2名から、人間総合科学学術院長賞候補として前期、後期各1名、また、看護科学学位プログラム長賞として前期、後期各1名を選出し、会議出席者より同意を得た。同様に、看護科学専攻後期課程修了者1名から、看護科学専攻長賞として1名を選出し、会議出席者より同意を得た。

- c. 各種受賞候補者(学長賞、優秀TF賞、茗溪会賞、校友会賞等)の募集と順位付け)
- d. キャリア支援担当委員会委員として就職に関する情報の配信
- e. ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリア委員^{注2)}(大学院生支援委員長)としての活動

注1)「学生支援対応チーム」の役割(学生支援・自殺対策WG報告書(2011.5)から抜粋)《キーワードは、つながる、つなげる、つながりあう》

(1)保健管理センターなど各支援組織との連携の窓口になる。

・保健管理センター等から学生の件について連絡・相談があった場合の窓口になる。

(2)クラス担任や指導教員へのサポートを行う。

・クラス担任や指導教員から学生についての相談を受け、一緒に対応する。

(3)所属する学生の不適応状況の把握と教育組織としての対応を行う。

・履修申請状況や単位取得状況について支援室からなるべく早く情報を得る。

・休学や復学、退学、留年などについての状況の把握と個別の支援・対応策を検討し、実施する。

(具体的には、 a) 学業や研究がうまく進んでいない学生への対応 b) 復学のための具体的な支援策の構築 c) 留年等により担任が代わる場合には、新しい担任と連携を図る d) 休学や退学が頻発するような場合は教育組織として適切な対応を図るなど)

注2)平成28年4月より「障害者差別解消法」の施行を受けて、大学全体として障害者等に対す

る合理的配慮が必要となった。これを受けて、ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターが開設され、大学院生支援委員長が担当委員となっている。

3. 今後の課題

筑波大学は、平成23年度より学生に対して直接指導を行う指導教員等を支援すること並びに各教育組織において学生対応に係る対策検討等のために、各学群・専門学群、各専攻単位で「学生支援対応チーム」を設置している。看護科学学位プログラムにおいては看護科学学位プログラムリーダーと大学院生支援委員から構成されている。今後は、これまでの活動を維持し、さらにより一層大学院生の学業や研究の完遂のための学生生活に関わる支援体制をチームとして取り組む形で強化していく必要がある。具体的には学生への支援対応チームからの一斉メールの配信、大学院生支援委員相互の情報交換を活発化し、事例に対して委員が個別に対応することはできる限り避け、複数人の教員によってチームで対応する方針を再確認する。今度の課題として、異なる文化的背景をもち日本語でのコミュニケーションが十分とは言えない留学生が今後増加すると考えられるため、支援体制をどのように構築するか、議論する必要がある。

この他、次年度においても、TA,TF,RAの時間配分について学生が学業を全うするのに障害とならないよう継続して指導教員とともに調整を行うこと、訂正され点数化により客観化された選考基準に基づいて、看護科学学位プログラムリーダー長賞並びに人間総合科学学術院長賞を選出することは継続する。

大学院生支援委員会として、今後も大学院生が学業、人間関係等に悩みを抱えるも相談することを躊躇し、大学院生が学業や人間関係等の悩みを相談できず孤独に陥ることを予防するため、できるだけ迅速かつ適切な支援を今後も継続実施していく方針である。

V. 社会貢献と国際交流

国際交流

2024年度は対面での国際交流がさらに促進された年となったが、大学院生や教員だけでなく、学類生のレベルでも活発な国際交流がみられた。イリノイ大学シカゴ校国際看護研修(6月28日～7月19日)には3名の看護学類生が参加し、モンゴル国立医科大学にて実施されたモンゴル国際看護研修(9月8日～18日)には6名が参加した。

海外からの研究者の受け入れや意見交換、オンラインセミナーの開催や共同研究の進展が見られたのは、台湾、ガーナ、中国であった。海外協定校との連携強化が図られ、既存協定の更新が実施されたのは、ベトナムとアメリカであった。さらに、国際的な視察を行い、交流の拡大が進められたのは、台湾、インド、ガーナであった。

次年度は、これらのパートナー国との交流を継続・強化していきつつ、新たなパートナー国との交流の可能性も模索しながら、教育・研究の国際交流を拡大していきたい。